

2012年9月8日から9月15日までGNCモンゴルエコツアーを実施致しました。 参加された学生の感想文をご紹介します。

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程
木村奈津子

エコツアーに参加して：つながりを発想する力を育てること

私は現在、ユキヒョウ保護運動の動向の調査をするため1年間モンゴルに滞在しています。ユキヒョウの保護運動とGNCの活動とは一見何の接点もないようですが、色々なご縁が重なり、今回のエコツアーに参加させて頂くことになりました。接点がないといっても、その両者の根底には自然環境への配慮があります。短い時間でしたがGNCで活動する人々と出会い、その活動を垣間見ることで、モンゴルで環境問題に取り組むとはどういうことなのか、わずかですが自分なりに考えることができたように思います。

最も印象的だったのは、大きく成長したアカマツに松ぼっくりがついているのを見つけた時の皆さんの喜びでした。植林した木がすくすくと伸び、そしてその木が種をつけ、森林の再生へとつながる。自分の行為・努力の結果が直接「目に見える」形で実るわけです。一方、動物、特にその姿を見ることが極めて難しいとされるユキヒョウの場合、狩猟を禁じ、保護区を整備し、地元の人々への訴えかけると様々な保護策を講じたとしても、「目に見えて」その保護の効果がわかることはありません。

環境問題への取り組みにおけるこの「目に見える」結果は、人々のモチベーションになるだけでなく、もう一つ、重要な意味を持っていると思います。自らの行為や努力の結果が目に見えてわかること、それはつながりを理解することです。温暖化にCO2削減、ゴミ問題、森林破壊に植林、野生動物保護と、環境をめぐる問題や取り組みには多種多様なものがあります。そしてそのどれにおいても、「自分がその問題に関わっている」という感覚を持つことの欠如、つまり「自分には関係ない」という姿勢が、問題を大きくしたり、あるいは問題解決への取り組みを難しくしているのだと考えられます。例えばエアコンの設定温度を自分一人が下げた（上げた）ところで地球温暖化などという大きな話には関係ないだろう、そんな姿勢です。ただこの姿勢は仕方がないとも思います。なぜなら多くの環境問題は、自分の行為とのつながりが見出しにくいものだからです。

だからこそ、植林のように自分の行為・努力の結果が見えやすい活動を行うことで、「自分には関係がない」という考え方ではなく、様々な物事とのつながり、行為の連関を想像する力が養われるのではないかと、思うのです。GNCは人と人とのつながりを大事にする組織です。GNCが活動を進め、人と人がつながり、そして「自分には関係がない」という立場だった人が、目に見えない行為の結果、物事とのつながりまで発想できるようになる、そ

してそういう人が増えていく。それが結果として環境意識を高めるということにもつながっていくのではないのでしょうか。

モンゴルは今、経済成長と広がる格差、鉱山開発に砂漠化・大気汚染などの環境問題と、社会全体が大きく揺れ動いています。貧困層とされる人も多く、自然環境よりも目の前の自分の生活、という状況に置かれている人がたくさんいます。また鉱山開発が様々な弊害をもたらしていたとしても、自分の土地ではないのなら関係ないという人も同じようにたくさんいます。それでも、若い人たちの環境への意識は変わってきたという声も聞こえてきます。木を植え、それが自分たちの努力によって森になる。それに子どもや若い人が関わっていくことで、つながりを想像する力が養われ、その他の多くの問題へも当たり前のこととして取り組んでいく、そんな社会をいつか実現させることが可能かもしれません。

そのような可能性を含んだ GNC の活動に私自身もまた関わり、協力していきたいと思えますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



GNC のエコツアーに参加して（感想）

一橋大学大学院・トゥギー

まず、このエコツアーに参加する機会を与えて頂いた GNC Japan やツアー中に色々とお世話になった GNC モンゴルの関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

今回、実際植林地や苗畑、モデル農場等の視察、GNC より提供された苗木を育てている住民の方々のお宅の訪問、GNC モンゴルの担当者より実際に活動が続ける上でのエピソードや苦労話、またこれからの展望を聞く等、とても充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

機械や野菜を作ることが大好きというモデル農場のツォゴーさんは、寒いモンゴルの気候を考え、ニレの木で防風林を植えたり、時間と労力を省くため種まきネットを手作りしたり、灌漑システムを導入したりと、大規模の農地であっても一人で難なく農業をやっていくために色々な工夫をしていることが印象的でした。自分が今まで蓄積してきた知識・経験を子供たちに教えてあげたいと目を輝かせながら話すツォゴーさんと、モデル農場にある研修センターを人づくり事業の拠点として活用することを計画中の GNC の共通

の夢はきっと形になって実現する日は近いのではないかと思います。

苗畑の視察を終えて、他にも多数の苗木会社も増えており、苗畑担当のゾルゴーさんは農業大学卒ということもあり、質のいい苗木で勝負して売り上げを伸ばしたいと強い意志とやる気を見せていました。

また、バヤンチャンドマニソムの道路沿いに作った公園ですが、地元が気に入ってくれたようで地元の予算でその隣に同じような公園を作るための工事を始めていたことを見て、GNCの皆様の思いがちゃんと届いたんだなと思うとうれしくなりました。

地方最後の日は、セレンゲ県トジンアルスの植林地の視察でした。森林火災の凄まじさを物語る木々の黒い焼け跡はまだ残っていたが、周りには2メートルから3メートルにも及ぶ高い木々がずらりと並んでいました。2004年に初めてGNCが植林をしたところでは松ぼっくりができている木を見つけたり、2010年の植えた小さい木は力強く大きく成長しているのを見て、今まで皆様が10年以上も続けて来た活動、努力に対して、頭が下がる思いでいっぱいでした。

木を植え続けることで、自然の大切さを人々に伝えて行きたいというGNCの理念は素晴らしいことです。モンゴルでは近年鉱山開発と経済発展を優先的に進められているが、自然保全を訴える声も少なくありません。せっかく作った公園が取り壊されそうになったが、幸い今はそこがまだ市の中で数少ない公園の1つとして残っており、また市の予算で拡大・整備されることになったという話を聞いて何だか救われた気持ちになりました。公園の完成まで3、4年もかかったということでしたが、ものを壊すのはあっという間で、それを元に戻すにはその何倍の期間と労力が必要になります。後で後悔しないために壊さないで済む方法はないか常に考えて行くことが大事だなと改めて思いました。

2012年10月



スマヤ ドゥルグーン 滋賀大学3年生、モンゴル人

私の初めて植えた孫さん

ある日、私は歩いていました。小さな木を見て踏んで何も思わずに行ってしまいました。踏まれて残された小さな木が「貴方のために生きているのに何でひどいことするの」と泣いて残りました。この奴は私に関係ないだろう、私のために何もやってないでしょうと思って遊びに行きました。あの小さな木が泣いて、泣いて、泣き続けて渴いてなくなりました。

あの時から何年間経ちました。ある日、GNCの皆さんと木を植え、巢立てる立派な仕事に付き合う機会ができました。植林について何も知らない私はGNCの皆さんと旅に出ました。「これは木です、それはメープルです、こうやって植えます、木とは少なくとも4、5年間経って私たちのようになりますので生き残るため精一杯頑張っています、木がなければ人間が生きていられません、大事な空気を綺麗にしてくれていますよ、」と教えてもらいました。

GNCの皆さんの植えた木が種出来たことを発見しました。その時、皆の目に涙がこぼれそうに「孫が出来ましたよ、私たちの植えた木が種できましたよ」と言っていました。一生忘れられない幸せなことでした。

帰って後、子供のとき踏んだ子供の木を思い出しました。なんて酷いことしたかと心の中で後悔していました。これから木を大事にして生きると自ら約束しました。ありがとう皆、ありがとうGNC。



東京大学 ウンダーク

感想文

GNCの2012年度のモンゴルでの活動に参加できて非常に良かったと思います。セレンゲ県植林地訪問とバヤンチャンドマン村視察では実際に農所と植林に接してみて、自然と環境による知識も伸びました。県庁や県民との協力、火災問題、労働力、苗木のマーケット、政府へのアプローチなどお話をする都度これから考えていくべき私にとって新しい事に気が付いた。

GNC Japanの皆様に加えツォゴさんやジャムスランさんなど立派な人たちに出会えたことも嬉しく思います。特に農業の仕事をしながら、プログラムを書いたりして技術的に新しい開発を求めるツォゴさんを見て‘工人と言うのはこんなもんですね’と思いました。これから工学を勉強するわたしにとってロールモデルの一つとなりました。これからはGNCの日本での活動にもモンゴルでの活動にも参加して自分のできる範囲で協力していきたいと思います。



東北大学 ツェンゲル

感想文

このたび、エコツアーに参加させていただきました。

YAMOH を通じて、GNC のこと初めて聞きました。

普段立ち触ることのできない自然の大切さ、モンゴル母国の美しさを改めて実感しました。

モンゴルでのモデル農場は興味深いものでした。普通農場見学することができないので、

モンゴルの天候にあった名前も区別できない色々な植物実際見てよかったです。

セレンゲ県で植えた松の木が森になっていて、長年の努力の成果が見えていました。

焼いて何もなくなったところが GNC のみなさんのおかげで、森になったことモンゴル人として

本当に感謝しています。ありがとうございました。

これからもよろしくお願ひします。

また機会があったら是非エコツアーなど GNC の活動に参加したいと思います。

では、その日までみなさんお元気で。